

第12回神奈川大学フランス語翻訳コンクールを終えて

国際日本学部 国際文化交流学科 熊谷 謙介

神奈川大学フランス語翻訳コンクールは、他の大学でもあまり行われていない独自のイベントのように思います。2013年に始めたときは、横浜キャンパスのフランス語学習者を対象にした企画でしたが、2021年4月、みなとみらいキャンパス移転に合わせて、神奈川大学全キャンパスの学生が参加できるようなコンクールとなりました。

語学というとしても「話せる」ほうに関心があって、パフォーマンスできる人が「すごい！」と言われる傾向があります。それはたしかに「すごい！」のですが、ちゃんと外国語を見て情報を読み取り、日本語に置き換えることも「すごい！」ことなのではないでしょうか。そういう、一見目立たないけれど、クラスでフランス語を真摯に学んでいる学生に、Magnifique！（マニフィーク！）と言ってあげたいという思いで、2013年にこの翻訳コンクールを立ち上げたのです。自動翻訳が日進月歩のごとく発展しているこの時代にあっても、たとえば文学作品を翻訳することについては、訳す一人ひとりの個性や、今まで築き上げてきた「言葉の経験」のようなものにじみで

るのではないのでしょうか。

今回も神奈川大学人文学会から予算をいただき、入賞者に図書カードを贈呈することが可能となりました。昨年度から国際日本学部学科祭補助予算という枠組みを使わせてもらっていますが、参加資格については、国際日本学部の学生だけでなくフランス語を勉強している神奈川大学の学生全員になります。

神奈川大学では外国語学部の英語英文学科・スペイン語学科・中国語学科それぞれのスピーチコンテスト、経営学部を中心とした外国語スピーチ大会など、語学を中心としたイベントが多く行われています。このフランス語翻訳コンクールは、観客を前にした熱い大会ではありませんが、参加者一人ひとりが単語はもちろん、授業でも習ったことのない文法で組み立てられている文章と格闘する、それはそれで意外に「熱い」大会であるかもしれません。

今回のコンクールの部門も、《初級・入門部門》（1年次中心）、《中級・応用以上部門》（2年次以上中心）で構成しました。初級・入門部門につい

ては、2024年にパリで行われたオリンピックについての文章を翻訳してもらいました。近代オリンピックを提唱したクーベルタン男爵はフランス人で、そのために現在でも、開会式で国名を呼ぶ際にはフランス語、英語、現地語の順番で読むなど、オリンピックの歴史をたどってもらいました。このクラスについては、差がつかないくらいミスのない答えが多く返ってきましたが、初級・入門というとまだ過去形（複合過去）にも辿り着いていない段階なので、本当によく調べて、丁寧に翻訳している姿が印象的でした。

中級・応用以上部門では、松浦理英子の短編小説「微熱休暇」（『ナチュラル・ウーマン』所収）の一部を訳してもらいました。本当に素晴らしい作品でフランス語にも翻訳されているのですが、それをそのまま問題文として、逆に日本語に訳し戻させるという意地悪な？問題を出しました。女性二人の何げないやりとりが日本のどこかの浜辺で繰り広げられるのですが、フランス語を通すとまるで地中海か大西洋のビーチのように見えたかもしれません。それを丹念に辞書などで調べて訳し戻す作業は、これまでなかなかやってこなかっ

た課題だったのではないでしょうか。

こちらもどれも素晴らしい訳稿が提出されて順位付けに迷うところでしたが、まずは訳ミスの数が少ないことを第一の基準としました。ただし、訳の正確さだけでなく、日本語の文章としての表現力についても評価しました。翻訳は外国語そのものの能力だけでなく、日本語の力も問われる、総合的なものだと思います。こうした基準から入賞者を決定しましたが、ぜひ作品自体も、フランス語の翻訳も隣において比べながら読んでもらえればと思います。

最後に、今回参加した学生たちの感想の一部を紹介させてもらいます。こうした声は「地域言語から新しい世界へ」と題した、神奈川大学共通教育養育センター・地域言語教育部会サイトでも日々伝えていきますので、世界の多様な言語に関心があるみなさんには、ときどきチェックしてもらえらうれしいです。

神奈川大学 地域言語への誘い

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/education/liberalarts/language/regionallanguage/>



初級部門で参加しました。授業でフランス語の意味を考えることはありましたが、オリンピックのこととなると単語や文章も難しかったです。このような翻訳コンクールに応募するのは初めてで、いざ自分で翻訳するとなると納得のいく和訳

が作れなかったり、より分かりやすく伝わりやすい訳にするために何度も書き直したことが大変でした。しかし、興味本位で今回参加してみたのですが新しく身についた単語や文法があったのももちろん、少しですが習った単語などがあり読み取れたことは一番嬉しくて、フランス語を学習した成果があるなど実感しました。(A. K.)

フランス語の勉強するのに役立つと思っただけで考えずにコンクールに申し込みました。文章量は多かったです。似たような単語を使っているのもあったので想像より翻訳にかかる時間は少なかった印象があります。フランス語の復習だけでなく、上手いけば図書カードも貰えるため深く考えずに受けてみることをオススメします！(S. T.)

中級・応用以上部門で参加しました。大変だった点は、たくさんある知らない単語の意味を調べなければいけなかったことです。また、自然な日本語と正確な訳とのバランスを保つことも難しかったですと感じます。例えばフランス語では基本的に主語を明示するのに対して、日本語ではしばしば主語は省略されます。主語を省略すると正確さが損なわれ、その逆では読みやすさが損なわれると感じ、難しさを感じたと同時に言語の違いを実感して面白かったです。

他にも、言わんとしていることの雰囲気がかかって、それをわかりやすい日本語で言語化で

きないというもどかしさにはかなり悩まされました。けれども全体を通して翻訳の楽しさを知ることができたためまた挑戦してみたいと思います。(T. M.)

今回初級の部門で参加させていただきました。賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。昨年度から初級フランス語の授業を受け、今年度は中級を受講していました。翻訳の際、参考書や辞書に頼る部分はまだまだありましたが、調べずともなんとなく意味がすらすら分かる文もあり、自分の成長を感じる機会となりました。分かった単語、表現、文法は今後の復習に繋がるため、苦手な箇所も分かってよかったです。今回は中級で挑戦してみたいと考えています。

いちらから翻訳することでこれまでの復習や力試しができ、文章を読むことでフランス文化を知る機会にもなるためおすすめです！(R. H.)

中級・応用以上の部門に参加しました。初級の時よりも、一文が長く、文の構造も複雑になっていて、どこまでが名詞を修飾していて、動詞がどの単語なのか、また、時制にも気を配りながら意識する部分が多くて、訳すのが大変でした。しかし、既に知っている単語・文法もあって、以前よりも力がついたことを感じて嬉しかったです。自分がどれくらいフランス語を身につけることが出来たのかを確認する意味でも、今回翻訳コンクールに参加して良かったです。(M. Y.)